

令和8年度 第1回 北浜東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年5月7日（木）14時から15時55分まで
- 2 開催場所 北浜東小学校 特別室
- 3 出席委員 本間 規子、生熊 義憲、今田 栄之助、久保田 静香、松島 晃市
小高 由貴美、今村 恵
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 松野 聖（北浜南部協働センター）
- 6 学 校 中島 利美（校長）、佐野 教代（教頭）、
加藤 美沙（CS担当教員）、入手 佑香（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 入手 佑香（CSディレクター）
- 9 会長の選出及び副会長の指名

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、生熊委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された生熊委員から、今田委員を副会長に指名する旨の報告があった。

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、生熊委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員意義なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 新年度の学校運営の基本方針の概要説明について
- (2) 学校いじめ防止基本方針に関することについて
- (3) 令和8年度学校運営協議会の自己目標について
- (4) 「夢育やらまいか」事業の意見書について

11 会議記録

司会の教務主任から、委員総数7人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 新年度の学校運営の基本方針の概要説明について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 日常的なプラスの言葉掛けは、以前から行っていると思うが、あえてグラウンドデザインに「日常的なプラスの言葉掛け」として盛り込む意味は何かあるのか。（生熊委員）
- ・ 子供同士の会話では、善意のつもりでも表現や言い方によっては、責められていると感じたり、いじめのように受け取られたりすることがある。それは、普段からお互いを認め合う言葉が不足しがちなことが一因だと感じる。

子供たちがお互いを尊重し、良い人間関係を築くためには、教職員が積極的にプラスの言葉をかけることが重要になる。また、子供たち同士が良い声掛けをした時には、その行動を取り上げて「今の声掛け良かったね」と伝える。指摘ではなく、アドバイスとして受け取ってもらえるように日々の中で良いコミュニケーションを増やす意識をもち、学校全体で取り組んでいきたい。

(校長)

- ・ 思ったことをそのまま口に出してしまうのが子供らしさだと思う。明るく素直で子供らしいその純粋さが子供の魅力だと感じる。(今田委員)
- ・ 子供は思ったことを悪気なく口にすることが自然だと思う。しかし、今の子供たちは、傷ついて責められたと感じ、受け取り側の心がまだ十分に育っていないことがある。学校生活の中で、お互いを認め合い、理解し合う人間関係を築き、アドバイスとして受け取れるような心を育ててほしいと考えている。(校長)
- ・ 子供が発する子供らしい言葉が、時には人を傷つけてしまうことがある。そのような経験は、言う側も言われる側も学びとなり、成長につながると思う。(小高委員)
- ・ プラスの言葉掛けは、受け取り側の情緒が不安定な場合、どんなに良い言葉でも誤解や悪い受け取り方をされてしまうことがある。そのため、家庭で子供の情緒を安定させることが大切だと思う。家庭での子供との関わりが学校でより良い人間関係の構築につながると思う。(小高委員)

協議の結果、令和8年度学校運営方針に全員意義なくこれを承認した。

(2) 学校いじめ防止基本方針に関することについて

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき「いじめ防止基本方針」について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ いじめは昔から存在しており、完全になくすことは難しいが、成長の過程で減少させることが望ましい。(松島委員)
- ・ 私たちの時代は、先生に気付いてもらえないいじめが多かったが、現在では、表に出ないいじめは存在しているか。(生熊委員)
- ・ アンケートや他の子供からの情報により事実が判明する場合がある。また、本人が自ら話すとは限らず、家庭からの相談をきっかけに確認するケースもある。(教頭)
- ・ SNSの利用が増える中、見えないいじめが多発していると耳にする。今年度から指導計画に「情報の日」を取り入れているので、情報モラルについてしっかりと伝えてもらいたい。(本間委員)
- ・ 家庭で子供とどれだけ会話することができるのかによって、いじめを早期に発見したり、子供が気軽に話せる関係を築いたりすることができると思う。
(今村委員)
- ・ オンラインゲーム等に規制を設けたりすることで、逆にいじめや仲間外れ

が増えてしまうのではないかと心配になることもある。(生熊委員)

- ・ 「情報の日」を設けた理由は、SNSに関わることを念頭に置いているのか。
(生熊委員)

- ・ SNSなどが当たり前になった現代において、単に制限を設けるだけでなく、どのように関わり、正しく使用していくかが重要になる。そのため、今年度は外部の講師を招いた情報モラル講座に加え、月に一度の「情報の日」を設けて、継続的に学びを深めていく。(校長)

(3)令和8年度の学校運営協議会の自己目標

議長の指示により、教頭から、令和8年度の学校運営協議会の自己目標について説明があった。協議の結果、令和8年度の学校運営協議会自己目標について、全員意義なくこれを承認した。

その後、運営協議会として、自己肯定感を高めるためにはどのようなことができるのか・他者を思いやる子に育てるためにはどのようなことができるのかを考え、委員からは以下の発言があった。

- ・ 地域の方々との関わり方や挨拶について、特に登下校時の挨拶ができる子供とできない子供の間に差が目立つと感じる。挨拶程度の簡単な言葉でも、積極的に口に出して関わることで、地域ふれあい活動の際にも自然な会話のきっかけとなると思う。(松島委員)
- ・ 思いやりをもつ子供に育つためには、自分がされて嫌なことは相手にしてはいけないことを覚えることが大切だと思う。(松島委員)
- ・ 自分だけができることを見つける。そして他者と比較して自分の優れている点を見つけてもらう。(生熊委員)
- ・ 自分には持っていないものを持っている人と交流の機会を作る。
(生熊委員)
- ・ 当たり前のことでも、基本的なことをきちんと行っていることに気づき、それを褒めることが大切だと思う。子供は褒めてもらえる環境があることで、私はそれだけで十分だと思えるようになるのではないかと。(今村委員)
- ・ 家での親子の会話の中でも、きつい言葉など気になった場合には、「子供が言ったことだから」と聞き流すのではなく、同じことを友達に言ったら相手が傷つくこともあると伝え、きちんと家庭で対話をするのが大事だと思う。
(今村委員)
- ・ 挨拶を交わすことはとても大切だと思う。挨拶をすることで、相手も返してくれることが、相手を意識するきっかけになる。(小高委員)
- ・ とにかく褒めることが非常に大切。自己肯定感が低いと、自分の良いところに気づくことが難しい。周りの人が積極的に良いところを伝えることで、本人の自己肯定感を高めることができる。認められることで、自信となり前向きな気持ちをもつことができると思う。(小高委員)
- ・ 道徳の授業の中で、「友達の良いところを伝える」内容がとても良かった。友達から自分の良さを伝えてもらうことで、自分の良さに気付くことができ

る。こうした授業を今後も行ってもらいたい。(小高委員)

- ・ 家族から、子供の好きなところを言葉で伝えてあげることがとても大切だと思う。(本間委員)
- ・ 温かく優しい言葉に包まれて育った子供は、自分自身にも他人にも思いやりをもって接することができる。その大切さを知ってもらいたい。

(本間委員)

- ・ 表現力を養うために、読書を通じて語彙を増やすことや、家族との会話も自己表現力を高める良い機会となる。(本間委員)
- ・ 自分が誰かの役に立ったと実感できる機会を意図的に作る。誰かから「助かったよ」「ありがとう」と感謝の言葉をもらうことで、誰かの役に立てた喜びを感じ、自分の良さに気づきやすくなると思う。(久保田委員)
- ・ 学校運営協議会での協議を通じて、改めて家庭の重要性に気付かされた。学校から、情報発信を行っているが、より心に響く、はっとさせられるような内容で家庭にも気付きを促す機会を作ることができるとうい。

(久保田委員)

- ・ 1日の学校生活の中で、自分の最高の瞬間を振り返る時間を作る。どんなに小さなことでも、自分を褒めることができるようになってもらいたい。

(久保田委員)

- ・ 担任の先生が配布した、週間予定表の中に「こんなことをしてくれた子がいます」と内容を書いてくれていたことがとても良かった。学校での子供の様子を知ることができ、家庭での会話のきっかけになった。また、子供にも先生が自分を見ていてくれることが伝わる。(今村委員)

(4)「夢育やらまいか」事業の意見書について

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき「夢育やらまいか事業」について説明があり、全員意義なくこれを承認した。

12 その他報告事項

司会から、第2回学校運営協議会は、6月16日(火)午後1時30分から特別室で開催する旨の報告があった。

浜松市の取り組みとして、今年度から始まるラーケーションについて教頭から説明があり、委員の理解を深めた。